**メルヒオールOnly Watch 2015**

**MB&F と歩むL’Epée 1839**

メルヒオールOnly Watchは、救助や保護のミッションを担う、相棒として最高のフレンドリーなロボットです。Only Watchは、モナコ大公アルベール2世殿下後援のユニークタイムピースのチャリティーオークションで、デュシェンヌ型筋ジストロフィー研究資金集めを目的に2年に1度開催されます。これは、進行性の筋力低下を特徴とする遺伝子疾患で、主に低年齢の男児に発症します。

明るい赤のアルマイト製パッドが保護する広い肩幅や、強い金属アームと脚を持ち、生気を帯びた脳とまばたきする目で、個性をはっきりと際立たせています。メルヒオールは、友達と遊ぶ準備が整っています。悪者が現れ、仲間との集まりを台無しにしようとする場合にのみ使う、小型兵器も携えているのです！

メルヒオールは遊ぶことが好きですが、おもちゃではありません。いつでも役に立てるようスタンバイしているように見えますが、高性能時計製造を専門とするスイス唯一の製造所L'Epée 1839が作った最高仕様の卓上時計でもあるのです。ジャンピングアワー、スイーピングミニッツ、ダブル・レトログラード・セコンドを特徴とし、5つのメインスプリングバレルによる驚異的な40日パワーリザーブを確保します。

時分は、メルヒオールの胸部にあるディスクを介して表示され、腹部のダイヤルが長いパワーリザーブの巻上げ状態を示します。メルヒオールの目は、固定した穴と回転ディスクの組み合わせでまばたきし、ロボットの表情に遊び心あふれた人間らしいパーソナリティーを与えています。メルヒオールの脳はムーブメントの精密レギュレーターであり、頭部の研磨仕上げを施したガラスドームの下で静かに脈打ち、いっそうの生気を放ちます。

2005年創業のMB&Fは2015年、「クリエーティブな大人は、長生きした子供だ」をテーマに10周年を祝います。メルヒオールOnly Watchは、このテーマを見事に体現しています。

一緒にプレーできるロボットこそ真の仲間であり、メルヒオールは期待を裏切りません。回転する上腕と旋回する前腕は、楽しいひと時を台無しにしようとする悪者たちを一掃するためのロケット発射機やガトリング砲の狙いを定めるために、優れた操作性を誇ります。さらに実用的なのは、取り外し可能な砲がムーブメントの巻上げ / 時刻調整キーとして二役を務めることです。

ブッサー曰く、「大昔、遠い遠い銀河では、人の親友はロボットでした」。「スターウォーズが大好きだった10歳の頃、R2-D2の様な人造人間なくしてルーク・スカイウォーカーは勝てないことを私は分かっていました。忠実で、機知に富み勇敢なロボットが、いつも彼の仲間を助けていたのです。ひとりの子供として、自分だけのロボットの友人を夢見ていました。メルヒオールは、子供のファンタジーを実現します」。

**ユニークピースであるメルヒオールOnly Watchは、メルヒオールシリーズの100点目にあたり、かつ最後のピースとなります。明るい赤のショルダーパッドを身に着けた、パラジウムめっき真鍮及びスティール製のメルヒオールは、子供たちの顔を笑顔で輝かせ、大人の心をとろけさせるに違いありません。**

**メルヒオールOnly Watch 詳細**

**メルヒオール、ロボット兼置時計**

MB&F創業者マキシミリアン・ブッサーは、ロボットと友達になりたいという子供の頃の願望を再考するため、デザイナーのチン・ワンと共にメルヒオールのコンセプトを発展させました。メルヒオールの480もの構成部品は、ムーブメントの50個の石以外、スイスのL’Epée アトリエでひとつひとつ加工し仕上げました。インプレッシブな334点の部品がムーブメントを、他の146部品はメルヒオールのボディーフレームと装甲を構成します。

MB&Fのロボットコンセプトの独創性に応えるため、L’Epéeは新たに数部品を開発しなければなりませんでした。メルヒオールのスカルを形成するバルジングガラスドームのような部品の加工、仕上げ、アッセンブリーも、ガトリング砲に似せたステンレススティール製巻上げ / 時刻調整キーを工作するのも、L’Epéeにとって初めてのことでした。

巻上げ / 時刻調整キーは、メルヒオールの左ひじジョイントソケットにクリップ留めされています。それを支える小さなマグネットはキー固定には十分ですが、ムーブメント機能に影響するほど強くありません。キーは二重構造のスクエアソケットを構成し、メルヒオール背部のスクエアペグ両方にぴったりフィットします。ペグのひとつはムーブメント巻上げ、もうひとつは時刻調整用です。

MB&Fのデザインを基に、L’Epéeは求められる特性に従って注意深く素材を選び、変化に富むボディーフレーム及び装甲部品を丹念に開発しました。精密度が極めて重要である、例えばメルヒオールの動的部分又は精密ロケット発射機には、めっきを施した真鍮を用いました。装甲は主に、敵の攻撃から守る最適な耐性を持つステンレススティール製です。

メルヒオールのボディーフレームに対しベベリング、鏡面研磨、サテン仕上げ、サーキュラーサテン仕上げ、サンドブラッシュそして研磨を含む目を見張らせるような巧みな仕上げを施しています。

マクシミリアン･ブッサーは「L’Epéeには驚かされます。一緒に働けるのは楽しい」。「いかに独創的で、いかに挑戦的なデザインであろうと、彼らは常に積極的に行動するのです」と語っています。

L’EpéeのCEOであるArnaud Nicolas (アルノー・ニコラス) も、相手に対するポジティブな感情を抱いているのは同じです。「MB&Fとのメルヒオール製作は、旋風に巻き込まれたようでした」。「メルヒオールは単なる置時計ではなく、永遠の子供である人々のための動く彫刻であり、多数のディテールにこだわっています。L’Epéeスタッフにとっても刺激的な技術チャレンジで、とても喜んでいます」。

アルノー・ニコラスはまた、「メルヒオールには威厳があります。初めて図面を見た時、これは素晴らしいものができると思いました。しかし、いかに特別なことが起きるのかを初めて実感したのは、最初のプロトタイプができた時です。MB&Fの創意で、私たちは再び人類未踏の場所に達したのだと感じました」とも言っています。

**メルヒオールのムーブメントとは**

メルヒオールの可視性の高いムーブメント製作のために、L’Epéeはパラジウムめっきを施した真鍮を用い、同じくパラジウムめっき真鍮製のムーブメントメカニズムを挟み込む、全く新しいスケルトン式メインプレートを開発しました。

L’Epéeは、時間のクリアな視認性を高める、スローなジャンピングアワーを開発しました。この自社製コンプリケーションはアワーディスクが55分間静止しているのを確認後、新しいアワーになる前に5分間回転し、スムーズかつ巧みにアワーチェンジします。

ムーブメント調整はインカブロック衝撃保護システムを備え、時計の持ち運びによるダメージリスクを最小限に抑えます。この衝撃保護は、一般的に腕時計にのみ搭載されます。実際、メルヒオール専用の置時計ムーブメントは、歯車列、メインスプリングバレル（5点、シリーズ）、テンプ、ガンギ車、アンクルといった腕時計と同タイプの機構を搭載していますが、それらのサイズは大型です。

ムーブメントは、コート・ド・ジュネーヴ、ベベリング、研磨、サンドブラスト、サーキュラー及びバーティカルサテン仕上げなど、腕時計に見られる最高級の仕上げを特徴としています。しかし、置時計ムーブメントでは大型部品の表面が広いことから、仕上げには腕時計以上の困難が伴います。

L’Epée のCEOアルノー・ニコラスは、「部品のサイズが倍になると、仕上げ時間も倍になるというような単純なことではなく、一気に複雑になるのです。例えば研磨では、腕時計ムーブメントの仕上げと同じプロセスをより広い表面に適用します。この工程での偏りは仕上がりに影響するので、均等な圧力をかけるための手際の良い安定した技能が求められるのです。」と語っています。

**メルヒオールという名前**

フィクションのロボットはたいてい、HAL 9000、C-3PO或いは K-9といった、頭字語又はリファレンスナンバーのようなあだ名を持っています。しかし、マクシミリアン･ブッサーはメルヒオールという名にこだわりました。

「ブッサー 家では、15世紀から500年以上にわたって長男にメルヒオール又はバルタザールと命名してきました。私の祖父はメルヒオールという名でしたが、それを嫌がって、皆にマックスと呼ばせていました。そして私もマックスと名付けられたのです。私の祖父はメルヒオールやバルタザールという名を嫌い、私の父にマリオと名付け、500年に及ぶこの伝統に終止符を打ちましたが、100年経った今、私はメルヒオールという名に愛着を覚えたのです」と説明しています。

**メルヒオールOnly Watch: 技術仕様**

メルヒオールOnly Watchは、モノクロームのボディーと対比を成す明るい赤のアルマイト製ショルダーパッドを備え、Only Watch 2015のために創られたユニークピースです。背中側に"Melchior Only Watch Piece Unique"のエングレービングが施されています。

**表示**"スロー"ジャンピングアワー及びスイーピングミニッツ：メルヒオールの胸部プレートを形成するツインディスクで、ひとつは時間を、もうひとつは分を表示し、両方ともMB&Fのシグネチャーニュメラルが特徴です。

レトログラード・セコンド：スティールマスクの裏側で、フライバックディスクが20秒間隔で区切ります。

パワーリザーブインジケーター：腹部のダイヤルが、残存エネルギーを直観表示します。

**ムーブメント**

L’Epée社内でデザイン・製作したムーブメント

振動数: 18,000 bph / 2.5Hz

バレル: 5点、シリーズ

パワーリザーブ: 40日間

ムーブメント構成部品: 334点

石: 50個

インカブロック衝撃保護システム

パラジウムめっき真鍮製機構

手巻き：二重構造のスクエアソケットキーによる時間調整 / ムーブメントの巻上げ

ムーブメント仕上げ：コート・ド・ジュネーヴ、ベベリング、研磨、サンドブラスト、サーキュラー及びバーティカルサテン仕上げを含む

**ボディーと装甲**

サイズ: 30.3cm x 21.7cm (腕の位置による) x 11.2cm

重さ: 6.3kg

ボディー / 装甲構成部品：146点

*ヘッド*

ドーム：研磨しベベリングを施したパラジウムめっき真鍮製ベゼルを介したねじ込み式研磨ガラス  
  
ステンレススティール製レトログラード・セコンド表示  
  
ムーブメントのメインプレート：パラジウムめっき真鍮

*トルソー*

腹甲 (時針及び分針を形成)：パラジウムめっき真鍮

腹部 (パワーリザーブインジケーターフレーム)：ステンレススティール

胸部/脊柱 (スケルトン式メインプレートが形成)：パラジウムめっき真鍮

*脚部*

骨盤、大腿部、向う脛及び脚：ステンレススティール

腰 (骨盤につながる長い中央バー)：ステンレススティール

*肩及び腕*

赤いアルマイト製の肩

上腕及び前腕のソケット：ステンレススティール、左腕ソケットにマグネット

右前腕：ねじ込み式ロケット、クロムめっき真鍮製ボディー及びステンレススティール製弾頭

左前腕：ガトリング砲 / 取り外し可能なステンレススティール製巻上げキー、パラジウムめっき真鍮製

ボディーと装甲は、ベベリング、鏡面研磨、サテン仕上げ、サーキュラーサテン仕上げ、サンドブラスト、研磨で仕上げ。

**MB&F－コンセプトラボの誕生**

***10年の歴史、10種のキャリバー、幾多の達成、無限のクリエティビティー***

2015年、MB&Fは10周年を迎えます。史上初のオロジカルコンセプトラボが経験した豊かな10年です。MB&Fを一躍有名にした、かの有名なオロロジカル・マシーンとレガシー・マシーンを構成する10個のキャリバーが象徴する、極限の創造性の10年と言えます。

15年間高級時計ブランドのマネージメントに徹したマキシミリアン・ブッサーは、2005年にハリー・ウィンストンのマネージングディレクターを辞任し、MB&F（マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ）を設立。MB&Fは、ブッサー氏が尊敬し、コラボレーションを共に楽しむ、才能あるオロロジカル職人を集めて先鋭的なコンセプトの腕時計デザインと小規模の製作を行う、アートとマイクロエンジニアリングのラボです。

2007年、MB&Fは初のオロロジカル・マシーンHM1を発表。HM1の彫刻のような3次元ケースと美を追求して仕上げられたエンジンは、奇抜とも言えるその後の同社オロロジカル・マシーンの基準となりました。HM2、HM3、HM4、HM5、HM6、そしてHMX。すべては時刻を告げるためだけのマシーンではなく、自らが時を知るマシーンなのです。

2011年にはMB&Fはラウンドケースのレガシー・マシーン・コレクションを世に送り出しました。MB&Fの視点から言えばよりクラシカルなこのラインアップは、現代的な芸術作品に仕上げる上で、過去の偉大なオロロジカル革新者が生み出した複雑エンジンを新たに解釈し直し、19世紀の優れた時計製造技術を讃えています。LM1とLM2に続いて発表されたLM101は、完全自社開発したムーブメントを搭載している初のMB&Fマシーンとなりました。それ以降MB&Fは、現代的かつ非常に斬新なオロロジカル・マシーンと、時計製造の歴史をインスピレーションの源とするレガシー・マシーンを交互に発表しています。

この10年で、MB&Fの軌跡の目印となる受賞機会もありました。すべてを網羅することはできませんが、2012年の「ジュネーブ時計グランプリ」では、レガシー・マシーンNo.1が「パブリック賞（オロロジーファンによる投票）」と「最優秀メンズウォッチ賞（プロの審査員による投票）」を受賞。2010年の同グランプリでは、HM4サンダーボルトで、「最優秀コンセプト＆デザインウォッチ賞」を受賞。そして2015年には、HM6スペースパイレートが、国際的な「レッドドット・デザイン賞」において最高位の「レッドドット：ベスト・オブ・ザ・ベスト賞」を受賞しました。

**L’EPEE 1839 –スイス第一級の時計製造所**

L'Epéeは175年以上、時計製造の第一線で活躍してきました。今日、高性能時計製造を専門とするスイス唯一の製造所です。Auguste L’Epée(オーギュスト・レペ) がブザンソン近郊で1839年に創業したL'Epéeは当初、オルゴールと腕時計の構成部品製造に携わっていました。L’Epéeの顕著な特徴は、全ての部分が手作りであることです。

1850年以来、製造所は目覚まし時計、置時計、ミュージカルウォッチに特化したレギュレーターのメーカーとなり、「プラットフォーム」エスケープメント生産においてリーダーシップを発揮しました。1877年までに、年間24000点のプラットフォームエスケープメントを製造していました。同製造所は、アンチノッキング、オートスタートそしてコンスタントフォースエスケープメントなど特殊なエスケープメントの特許を多数保有する著名な専門メーカーであり、また現在世に知られている複数の腕時計メーカーへのエスケープメントのサプライヤーでもあります。L'Epéeは、国際展示会において数々の金賞を獲得しています。

20世紀には、L'Epéeは最高級旅行用携帯時計でその評判を高めましたが、多くの人にとってL'Epéeは影響力と権力を持った人が所有する時計であり、フランス政府関係者から上流階級ゲストへの贈与品としても選定されていました。 1976年にコンコルドが超音速航空機として商業就航した際には、L'Epéeの柱時計が客室の装備時計として選定され、乗客への時間の視覚的フィードバックに使われていました。 1994年には、L'Epéeはチャレンジ精神に突き動かされ、調整された振り子が付いた世界最大の時計Giant Regulator(ジャイアント・レギュレーター)を構築しました。 高さ2.2メートル、重さ1.2トン、機械式ムーブメントだけでも120キロの重さがあるこの時計製造には、2800人時の作業を要しました。

L'Epéeは現在、スイス、ジュラ山脈のドレモンに拠点を置いています。L’Epée1839は CEOのアルノー・ニコラス主導の下、洗練されたクラシックな旅行用時計、現代のデザインクロック（Le Duel）、およびアバンギャルドなミニマリスト時計（La Tour）ラインナップを含む、最高級置時計のコレクションを展開しました。 L’Epéeの時計は、レトログラード・セコンド、パワーリザーブインジケーター、万年カレンダー、トゥールビヨン、および打鈴機構を含むコンプリケーションを特徴としており、すべてが社内でデザイン・製造されています。 超長時間のパワーリザーブは、最高水準の仕上げと共にブランドのシグネチャーとなっています。